

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。紫陽花のきれいな季節になりました。でも、関節炎や神経痛が出やすいのが梅雨時。くれぐれもご自愛ください。

今年のかかわら版は、日常会話の中に浸透している仏教用語についてお伝えしています。

日常の言葉の中に仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

五三八年に大陸から日本に伝わって以来、神仏習合、神仏混交の中で、活や日常の中に深く根づいていった仏教。仏教用語が定着しているのも、もっともなことです。

多くの仏教用語を知ることを通じて、お釈迦様の教えを知り、心穏やかに過ごせることは無上の喜びです。

と表現したこの「無上」も仏教用語です。

あまり深い意味のなさない漢字の組み合わせですが、「上」が「無」い

のですから、最高ということでしょうか。実は、最高という意味は誤った使われ方です。

サンスクリット語の「アヌツタラ」の漢訳が「無上」。音写では「阿耨多羅(あのくらた)」。般若心経でもこのくんだりには音写でしたね。

「ア」を除いた「ヌツタラ」は「より高い」「より上」という他者との比較を意味しますそれを「ア」という冠詞で否定しているのが「アヌツタラ」「阿耨多羅」「無上」です。

他者と比較することをお釈迦様の教えを知らず、否定しているのですから、「無上」は最高の喜びではなく、上とか下ではなく、比較できない真実に接した感動を「無上」の喜びと言います。

「お釈迦様の教えを知り、心穏やかに過ごせることは無上の喜びです」という表現は、仏教的には正しいと言えます。何しろ、お釈迦様の教えは真実の

教えですから。

仏教は生きるための哲学です。自分の考えや欲に執着することなく、自分と他人を比較したり、分別することなく、まわりの出来事ありのまま受け入れること。そういう姿勢が「無上」であり、「真実」。その「真実」も仏教用語です。

「真実」とはお釈迦様の教えそのもの、覚った後の存在をひとことで表している「如来」と同じことを表す言葉です。

ひとりでも多くの人自身自身を見つめ、真実を見つめ、「空」「無常」「無我」の仏教の教え、般若心経の真髄を知ることが素晴らしいことです。

ひとりでも多くの人自らの内面にある仏心に触れ、平和で穏やかな人間関係や社会を実現していきたいものです。

※

合掌。



かわら版執筆者 大塚耕平

覚王山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

愛知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化の継承と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。2017年から中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師を務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」(大法輪閣)、「仏教通史」(同)など。愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。



大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

